



2024年 9月 27日 担当 虻川

8月印刷・情報用紙国内出荷、7.2%減で24ヵ月連続のマイナス

		生産		出荷計					在庫		(参考)輸入*		
		前年比	前年比	前年比	国内出荷	前年比	輸出	前年比	前月比増減	前年比	前年比		
8月	紙・板紙計	1,774	+1.4	1,688	▲1.5	1,559	▲3.3	130	+26.7	1,877	+86	71	+2.5
	紙計	874	▲0.6	806	▲1.2	737	▲3.8	69	+38.6	1,044	+68	50	+5.4
	新聞用紙	132	▲6.5	127	▲7.3	127	▲7.3			162	+5	0	▲61.6
	印刷・情報用紙	471	▲1.2	411	▲2.7	362	▲7.2	49	+51.1	601	+60	46	+4.9
	非塗工紙	122	+6.8	109	▲2.7	100	▲5.3	9	+40.6	191	+13	2	+115.9
	塗工紙	289	▲1.8	227	▲1.3	192	▲6.7	35	+44.5	300	+42	7	▲34.0
	情報用紙	80	▲9.8	75	▲6.7	70	▲10.8	5	+177.4	111	+4	37	+15.0
	包装用紙	66	+8.3	60	+2.6	47	▲1.5	13	+20.0	95	+6	1	+23.2
	衛生用紙	153	+2.3	159	+5.3	159	+5.3	0	▲17.4	90	▲6	1	▲35.6
	板紙計	900	+3.4	882	▲1.7	822	▲2.8	60	+15.3	834	+17	22	▲3.8
	段ボール原紙	729	+2.7	721	▲2.4	665	▲3.6	56	+15.8	605	+8	2	▲14.9
	白板紙	119	+6.6	109	+2.8	105	+2.6	4	+7.4	142	+10	20	▲1.2
	グラフィック用紙	603	▲2.4	538	▲3.8	489	▲7.2	49	+51.1	763	+65	46	+4.8
	パッケージング用紙	1,018	+3.7	991	▲1.2	910	▲2.4	81	+15.5	1,024	+27	24	▲0.1

		生産		出荷計					在庫		(参考)輸入*		
		前年比	前年比	前年比	国内出荷	前年比	輸出	前年比	前月比増減	前年比	前年比		
<累計>	紙・板紙計	14,244	▲2.8	14,229	▲2.5	13,075	▲4.0	1,154	+19.7	1,877	+86	466	▲5.1
	紙計	6,677	▲5.2	6,675	▲4.5	6,094	▲6.7	581	+27.5	1,044	+68	328	▲5.0
	新聞用紙	1,048	▲8.6	1,023	▲9.7	1,023	▲9.7			162	+5	1	▲13.7
	印刷・情報用紙	3,453	▲8.3	3,480	▲7.1	3,076	▲11.0	405	+39.1	601	+60	304	▲4.3
	非塗工紙	897	▲7.5	907	▲7.4	833	▲9.5	74	+26.3	191	+13	6	+5.8
	塗工紙	1,892	▲8.7	1,896	▲7.6	1,594	▲13.0	302	+38.2	300	+42	50	▲23.6
	情報用紙	665	▲7.9	677	▲5.2	648	▲7.4	29	+108.9	111	+4	248	+0.6
	包装用紙	499	▲2.1	506	+0.3	399	▲2.6	106	+13.3	95	+6	6	+4.6
	衛生用紙	1,241	+2.7	1,230	+3.3	1,229	+3.3	1	▲6.0	90	▲6	6	▲39.7
	板紙計	7,567	▲0.5	7,555	▲0.6	6,981	▲1.6	573	+12.7	834	+17	138	▲5.3
	段ボール原紙	6,234	▲0.3	6,216	▲0.7	5,671	▲1.8	544	+12.7	605	+8	15	+17.6
	白板紙	892	▲1.1	900	+0.9	872	+0.5	28	+13.2	142	+10	118	▲6.1
	グラフィック用紙	4,501	▲8.3	4,503	▲7.7	4,099	▲10.6	405	+39.1	763	+65	305	▲4.3
	パッケージング用紙	8,503	▲0.4	8,496	▲0.3	7,748	▲1.3	749	+11.4	1,024	+27	155	▲4.4

(注)1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。
 2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。
 3. 在庫の前月比増減は数量(千トン)表示。
 4. 輸入*は7月

のマイナス、包装用紙が1.5%減で2ヵ月ぶりのマイナス、段ボール原紙が3.6%減で2ヵ月ぶりのマイナスとなった一方、白板紙が2.6%増、衛生用紙が5.3%増で、ともに2ヵ月連続のプラスとなっている。

日本製紙連合会が発表した2024年8月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出荷は前年同月比3.3%減で2ヵ月ぶりのマイナスとなった。用途別では、グラフィック用紙が7.2%減で31ヵ月連続のマイナス、パッケージング用紙が2.4%減で2ヵ月ぶりのマイナスとなっている。

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比7.2%減で24ヵ月連続のマイナス。その他の品種では、新聞用紙が7.3%減で39ヵ月連続



2024年 9月 27日 担当 虻川

カナダの中国 EV 輸入規制、菜種市場にとぼっちり

食用油の原料となる菜種相場に異変が生じている。3日のカナダ産キャノーラ(菜種)先物相場は一時7%超下落した。発端はカナダ政府による中国製電気自動車(EV)関税の引き上げにある。

カナダ政府は8月26日、中国製EVに対して100%の関税を課すと発表した。現在、中国産EVの関税は6.1%にとどまる。対して中国商務省は9月3日、カナダ産の菜種や化学製品を対象に反ダンピング(不当廉売)調査を始めると発表した。EVの追加関税の対抗措置とみられる。

実は中国がカナダ産菜種を報復に使うのは初めてではない。2019年から22年まで輸入を制限していた。カナダ当局が華為技術(ファーウェイ)の孟晩舟最高財務責任者(CFO)をバンクーバーで逮捕したことへの報復とみられる。19年5月には国際相場が4年半ぶりの安値に急落した。

マーケット・リスク・アドバイザーの檜垣元一郎フェローは「菜種と大豆は油の原料として置き換え可能」とし「中国がカナダ産菜種の輸入に制限をかけた場合、長期間続きかねない」と指摘した。

国内メーカーは「中国が反ダンピング関税を導入すればカナダ産菜種価格は下がる一方、他産地の菜種や大豆などが上昇する可能性がある」と話した。

逆に中国国内の菜種かす先物相場は一時急騰した。大豆油で代替できるといっても料理や地域によってどの油を使うかは好みが分かれるところ。最終的にとぼっちりをうけるのは中国の消費者かもしれない。

日経新聞



2024年 9月 27日 担当 虻川

大阪ガス、クリーンガス証書の取引を実用化 大阪万博で

大阪ガスなどは 25 日、二酸化炭素(CO2)排出が実質ゼロの都市ガス「e メタン」などによる環境価値を証書で取引するシステムを、2025 年国際博覧会(大阪・関西万博)で実用化すると発表した。システムを通じて外部の e メタン事業などによる証書を万博会場に供給するガスに割り当て、CO2 排出をゼロにする。

e メタンやバイオガスによる環境価値を証書にして取引する「クリーンガス証書」の仕組みは 4 月から始まった。大ガスは三菱重工業と共同で証書の管理や取引をするプラットフォームを開発。同様のシステムの実用化は世界初という。万博での活用を経て、2030 年ごろからシステムを普及させる目標だ。

将来的にはシステムを再生航空燃料(SAF)や合成燃料(e-fuel)による環境価値取引にも適用させることを目指す。



2024年 9月 27日 担当 虻川

NY 商品、原油続落 サウジが増産の準備と伝わる 金は続伸

26日のニューヨーク・マーカンタイル取引所(NYMEX)で原油先物相場は続落した。WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)で期近の11月物は前日比2.02ドル(2.9%)安の1バレル67.67ドルで取引を終えた。主要産油国が12月から増産を始め、原油需給が緩むとの見方が重荷となった。

英フィナンシャル・タイムズ(FT)は26日、サウジアラビアが12月から増産する用意があると報じた。石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟国の主要産油国で構成するOPECプラスが自主減産を続けている。だが、サウジは財政収支の均衡を保つために100ドル近くに原油を引き上げたい狙いがあった。現状では米国などの生産が拡大し、OPECプラスによる減産で価格を引き上げるのが難しいと判断し、減産目標を放棄するという。

相場の下値は堅かった。朝発表の週間の新規失業保険申請件数は21万8000件とダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想(22万3000件)を下回り、労働市場の底堅さを示した。8月の米耐久財受注額は前月比で横ばいと、市場予想(3%減)を上回った。いずれも米景気の悪化を示す内容ではないとの受け止めから、原油先物に買いが入った面もあった。中国が26日、景気刺激策を一段と強化する方針を示したことも支えだった。

ニューヨーク金先物相場は7日続伸した。ニューヨーク商品取引所(COMEX)で取引の中心である12月物は前日比10.2ドル(0.4%)高の1トロイオンス2694.9ドルで取引を終えた。米利下げ観測が引き続き買いにつながり、一時は2708.7ドルと中心限月として最高値を更新した。



2024年 9月 27日 担当 虻川

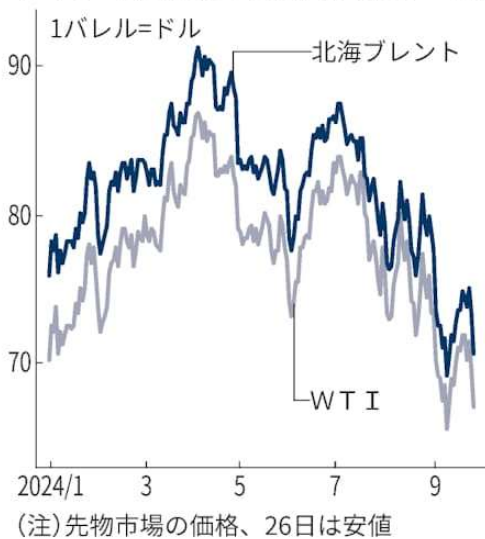
OPEC プラス、12月に原油増産の観測 価格は一時4%安

ロイター通信は26日、非石油輸出国機構（OPEC）と非加盟のロシアなどで構成する OPEC プラスが12月に原油増産に踏み切るとの見通しを報じた。原油需給が緩むとの観測から、同日の欧州指標の北海ブレント先物は一時、2週間ぶりの安値を付けた。

英紙フィナンシャル・タイムズ（FT）も同日、サウジアラビアが1バレル=100ドルの原油価格の非公式目標を撤回し、12月の原油増産に向けて準備を進めていると報じた。減産で原油価格を下支えする姿勢をとってきたが、非OPECの米国やカナダなどに奪われた市場シェアの回復を重視する方針に転換するという。

これまでサウジアラビアは OPEC プラスを主導し、5日には減産幅の縮小を12月へ2カ月延期すると決めていた。市場には再延期の見方もあった。

サウジ増産報道で原油価格が下落



報道を受けて、原油価格は下落している。北海ブレント先物は一時前日比4%安の1バレル71ドル弱と、12日以来の安値を付けた。米指標のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）先物も同4%の一時66ドル台をつけるなど、約2週間ぶりの安値圏で推移する。

英キャピタル・エコノミクスのエコノミスト、キエラン・トンプキンス氏は「政策転換が示唆されており、原油価格の下落リスクが高まっている」と

指摘する。

世界的な景気減速による需要鈍化が意識され、原油価格の低迷が続いている。北海ブレント先物は9月上旬、2年9カ月ぶりに1バレル70ドルを下回った。